

## 令和8年度一般入学試験問題 国語・小論文

(四の二)

○次の文章は、佐倉統<sup>①</sup>（東京大学教授）と三好春樹<sup>②</sup>（生活とりハベリ研究所代表）の対談を文字化したものです。これを読んで、後の問いに答えなさい（設問の都合上、文章を改変した箇所があります）。

佐倉 いきなり私事で恐縮ですが、数年前に父が寝たきりになって介護が始まりました。いろいろと戸惑うなかで出会ったのが三好さんの本で、その発想や考え方におおいに<sup>③</sup>励まされてきました。同時に、介護の現場はぼくの専門である科学と社会のコミュニケーションについて、多くの<sup>④</sup>示唆を与えてくれるものだとも感じたのです。今日は科学的知識の使い方や科学との<sup>⑤</sup>キヨリのとり方について、三好さんの活動を通してのお話をうかがいたいと思います。

三好 私は高校を中退した後、介護現場に入ったのですが、これが不思議な世界でね。病院でもうこれ以上治療できないといわれて、死ぬつもりで特養（特別養護老人ホーム）に来たじいさんが、半年もするとけっこう元気になる。なんでだろう、って先輩に<sup>⑥</sup>タズねると「さあね、担当の寮母が好みだったんじゃないの」って（笑）。現場では科学的な理由とか  なんて考えないんです。第一、従来の医学の<sup>⑦</sup>ワクにおさまらない。当時は教科書もなかったので、答えは自分で見つけなければならない、というところから始まりました。

佐倉 それは、ある意味幸せな出発の仕方ですよ。

三好 介護現場で科学は、二つの「キョーハク」になります。一つは「エビデンス（根拠）を示せ」という脅迫。科学的根拠はあるのか、と。もう一つは「科学的でなければならない」という自分自身の強迫観念。

佐倉 なるほど。でも、三好さんは、どちらの「キョーハク」からも自由でいらつしやいますよね。そこからどのように逃れたのですか？

三好 介護は新しい分野だったから、科学を求めて、一所懸命にデータを集めて、発表したりもしました。でも、五年、一〇年のうちに、科学的に正しいとされたものが「それは間違いでした」と変わってしまう。そのうちに、生活のなかにある「常識」こそを大事にしなければならないと気づいたんです。

佐倉 三好さんは最初に四年間、特養に勤務されて、その後リハビリテーション大学に入学されました。そこで理論を学んでPT（理学療法または理学療法士のこと）の資格取得後、また現場に<sup>⑥</sup>モドられたんですね。

三好 そう。学校では訓練法として医学を学ぶのですが、現場で働いていた自分からすると、その知識は介護にとつての宝の山なんです。でも、そこで気づいたのは、そんな素晴らしい医学的知識が現場ではちつとも有効に使われていない、ということでした。医学というのは、ある病気を治すために知識や技術を総動員するものすごい体系で、まさに近代科学の成果のひとつです。でもそれが、「もうこれ以上治りません」という段階がくると、無力になっている。

佐倉 認知症や脳卒中による麻痺は、ある段階以降、もう打つ手がない……。

三好 でも、本当はそんなことはないんです。たとえば排泄ケア。以前は、オムツ交換が排泄ケアだと考えられてきました。しかし、オムツ交換は、ただ排泄物の後始末をしているにすぎません。老化や障害、痴呆のある人が、どうすればトイレで排泄できるかを一人ひとりに工夫することが、排泄ケアの基本です。生理学を学ぶと、朝食後に腸の総蠕動が起こり、直腸に便が送られて排便反射が起こるということがわかります。そのタイミングがわかれば、どんなに心優しくオムツ交換するより、朝トイレに座ることを介助すればいいとわかります。今の医学はたしかに認知症を治すには無力ですが、「認知症をもちながらいかに生きていくか」ということには、いくらでも使えるのです。

佐倉 既存の知識が現場に取り込まれていないということなんですね。

三好 今ある<sup>⑦</sup>膨大な医学や科学の知識を、一人の幸せのために使うことができているのかということなんです。科学技術の進歩つてすごいですよね。どんどん新しいことがわかってくる。それはそれでいいんだけど、これまでに<sup>⑧</sup>チクセキされてきた知識を再構成して、ちゃんと使えるようにしようよ。これは医療と介護の分野だけでなく、全世界的にいえることだと思います。

問一 傍線部①～③のうち、カタカナは漢字に、漢字は読み仮名にしない。

問二 空欄Aに入る最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 上下関係

イ 因果関係

ウ 力関係

エ 恋愛関係

問三 二重傍線部「本当はそんなことはないんです」とあるが、三好氏は結論として、何が、どうだと考えているのか。簡潔に述べなさい。

問四 「知識と現場」ということについてあなたが考えるところを、四百字以内で具体的に論じなさい。